

第三次富士川町子ども・子育て支援事業計画（案）パブリックコメント実施結果

- 1 意見募集期間 令和7年1月10日（金）～令和7年2月10日（月）
- 2 意見件数 6件
- 3 意見・提言の要旨 下表のとおり

No	素案該当ページ	意見・提言の要旨	町の考え方	計画反映の有無
1	<u>P.27～63</u> 第4章 主な取り組み全般	第二次子ども・子育て支援事業計画と比べて、新規で始まった事業は「新規」と“主な取り組み”の欄に記入いただくと比較しやすくわかりやすいと思いました。	参考意見として検討しましたが、案のとおりとします。	無
2	<u>P.32</u> 第4章 基本目標1 施策2 経済的負担の軽減 <u>P.52</u> 基本目標4 施策4 子どもの貧困対策の推進	富士川町内には高校がなく、高校進学のため、町外に通学しなければなりません。特に、富士川町は甲府市内から遠く、甲府市内の進学校へ進学する生徒は、通学代だけで10万円以上かかり、経済的な負担となっている家庭があります。 家庭の経済的な理由から、希望する甲府の進学校への受験を断念し、高校進学を選択肢を奪うことはあってはならないことと考えます。 そこで、町外へ進学する高校生の通学費を補助するなど、経済的な負担の軽減や子どもの貧困対策の推進の一つとして、他の市町村に先んじて、通学費補助制度の創設を提言します。	今後の検討課題とさせていただきます。	無
3	<u>P.52</u> 第4章 基本目標4 施策4 子どもの貧困対策の推進 主な取り組み：就学にかかる費用の助成	高校生の通学費用を助成してほしい 中学校を卒業して高校へ進学する際に、学給付金及び就学支援金などの制度もありますが、通学費用を対象とした支援はありません。小中学生の間は、現行の就学支援には大変助けていただきました。また、学用品リサイクルくるくるも何度も活用させていただきました。継続を希望します。	今後の検討課題とさせていただきます。	無

4	<p>P.61 第4章 基本目標6 施策1 安心して暮らせるまちづくり 主な取り組み：公共交通機関</p>	<p>①高校生は年間20日以上、イレギュラーな時間（13時～15時）に下校する日があります（定期テスト、模試など）。日頃、駅自宅間または学校自宅間の送迎を保護者がしていたとしても、午後の早い時間には対応できません。そのような日にデマンドバスを使用しますが、子供が学校へ行って帰宅することに、料金が掛からない方がうれしいと思います。高校生のデマンドバス無料化を希望します。現行、デマンドバスが走っていること及び予約が難しくないことに助けられています。</p> <p>②富士川町には標高の高い地域がいくつもあり、町の中心部、天神中條との標高差は500～1200M程度あります。中学校の部活動や高校生の通学時、保護者としては「送迎」のうち「送り」だけでも子供自身で移動してもらえると仕事や生活の縛りが軽減します。その標高差を自転車で上ることは難しく、公共交通を利用して帰宅した際は、自転車を取りに行く必要があります。（時間が縛られないので、迎えよりも保護者の拘束間は軽減します）自転車ごと運べるバス（サイクルラックバス）を運行してほしいです。</p> <p>③また、サイクルラックバスが運行した際には、高校生をサイクルラック通学バスに同乗させてほしいです。部活動に加入しない高校生は、甲府の高校へ通っても下校時、町内到着が17時または18時頃です。その時間、通学バスが通っており、例えば増穂中学校に17時や18時に到着できれば、事前登録してある高校生については同乗できるような仕組みがあれば大変助かります。中学校在学時にバス通学していた生徒を対象に、登録制にできれば、路線変更や停留所等の新設は不要ではないでしょうか。その際は、自転車ごと運んでいただくとバスを降りた先のバス停から自宅までの間を自転車で移動でき、翌日も朝は自転車で登校することができます。</p>	<p>今後の行政運営の参考とします。ご意見ありがとうございます。</p>	<p>無</p>
5	<p>P.50 第4章 基本目標4 施策3 障害のある子どもがいる家庭への支援</p>	<p>障がいのある子どものいる家庭への支援に、インクルーシブ教育の推進を掲載して頂きたいです。「ふじかわ障害児・障害者プラン2024」の「6 障害児支援の充実」の欄に、インクルーシブ教育の推進があります。世界的にみても、インクルーシブ教育推進の方向に動いていますので、ぜひ取り入れてほしいと思います。</p>	<p>追加しました。</p>	<p>有</p>

6	<p>概要版P.1          計画の位置づけ          国の動向：2.こどもや          子育て当事者の視点を          尊重し、対話を通じて          進める</p>	<p>計画案の中に、アンケートは保護者からのみ、子ども子育て会議も保護者（公募でない）、教育関係者、行政事務方。子ども本人たちの視点の尊重や対話はどこで行われるのかという疑問が大きく残りました。</p> <p>さらに、「子どもたちからのアンケートを取る」などという対策では、本当の意味での子どもたちの想いは拾えない、という事もお伝えしたいと思います。例えば学校で行う場合、質問内容が限定的で本当は何を言いたいのかを引き出せない物になる事が想像できます。そもそも「聞きたいから答えて」という問いに、当の子どもたちは「大人たちが欲しがら、正解の答えを提出」する様に教育されているからです。</p> <p>学びたい事、やってみたい事、大好きだと思えるものを見つける事、思う存分そのことだけに没頭することが出来る場の提供。全てを叶えてあげるという事ではなく、仲間とつながる事、失敗すること、出来る事からやってみるとい道の見つけ方、など教える事、人材。</p> <p>そんな事を自然に自由に、躊躇なく語れる場所と人との出会いが、子どもたちにはとても大きい存在になるのではないかと考えます。</p> <p>そこには、「言ってもどうせ変わらないし、できないでしょ」と思っている大人も「そんな事いって、バカみたい」という様な反応も一切あってはいけません。「面白いね、そうならいいね」と聞いてくれる、面白がってくれる人がいて、どんな突拍子も無い事も「言っている」が普通である事が大切です。</p> <p>そういう意味での、学校でも家庭でも無い第三の居場所作りや、興味を持って参加してくれそうなイベントプログラムの開発に力を入れて欲しいと思います。そんな場所や出会いの場を沢山作る事で、子ども本人の視点や意見を拾う事が出来るのではないかと、思います。</p>	<p>今後の行政運営の参考とします。ご意見ありがとうございました。</p>	<p>無</p>
---	--	---	---------------------------------------	----------